

プラザサロン「プロが伝授 DTPのコツ」

話題提供者 山本 薫さん(グラフィックデザイナー)

2000年12月9日(土) 厚木市情報プラザ会議室

司会の挨拶、話題提供者紹介の後、

今、「グラフィックデザイナー」と紹介されましたが、自分では「職人」と思っています。

皆さん、1~2年はされていますよね。初めて間もない方はいらっしゃいます? (一人の方が挙手)でも自宅でも何らかのことをされていますよね。皆さん、DTPに関してはあまりご存知ない?わかりました。それを踏まえて話を進めます。

DTPとは? 今に至る背景

DTPというのは、「Desk Top Publishing」の略で、「卓上で出版物が作れる」ということです。今まさにその時代ですよ。自宅でもパソコンとプリンターがあれば、DTPの環境はほぼ揃うことになります。こういう状況はここ数年のことで、昔は、今では考えられないほどの段階を経て、ポスターなどの出版物が作られました。

「写植」をご存知ですか? 「写真植字」というのですが、昔は出版物として使われる文字は、写植を使っていました。

今日、文字盤をお持ちしました。このB4くらいのを350kgの機械にセットし、一文字一文字、文字を拾います。「山」「本」「薫」というように。それを印画紙に焼き付けて初めて印刷の一手手前の「版下」というものができたんです。この写植というのは、裏返してセットするので、ひっくり返して文字が読めないと思えません。

文字盤の中には2000文字くらい並んだ大きいものがあり、どこに何と言う文字があるかを覚えるのに1年くらいかかり、それをある程度こなせるようになるには何年もかかります。私が職人だと言ったのは、写植がこういう世界に入るきっかけで、本当に「職人技」に頼って印刷物は作られていました。

撮った写真は印刷にはすぐには使えないことをご存知でしたか? アミ点に変えなければ印刷には使えません。そのアミ点にするための作業があります。点々でできた透明な板があり、それを写真の上に乗せて、それを印画紙に焼くとアミ点のあるものになるのですが、光の強さも職人技で作っている、話していけばきりが無いほど、いろんな分野の職人の仕事を組み合わさって、はじめて出版物の元になる版下ができたのです。

きちっとした版下ができると、それを写真に撮って「ネガ」

にします。ポジでもいいのですが、それで製版を作って、大きなアルミ板に焼き付けて、ドラムに巻きつけてクルクルと印刷していくわけです。今、説明しただけでも、専門家がそれぞれの分野を経ないとできない印刷が、ここ数年で皆さんのようなパソコンを使って間もない方でも、出版物がいつも簡単にできるようになったのです。

DTPで、プロと同じような作品が

そういう意味で、コンピュータで、皆さんも手軽にいろいろなものを作れると思います。これをレベルアップして行って、技術を磨いていけば、そのまま版下に使用できるのです。ここにあるポスターが作れるということは、トッププロが作る、ポスターや本などに徐々にそれに近づけていけるということです。

DTPを学ぶ中で、プロと同じような作品も作れるという可能性を持っていただくことによって、今、やっていることが先々、すばらしいことにつながるができるという認識を持たれば、夢のある作業として、ポスター作りや年賀状も作れるのではないかと思います。

皆さんの使われているコンピュータについてですが、私が使い始めたのが、10数年前。それほど古くありません。5年以上使われている方は?(数名挙手)<「会計処理で」>

コンピュータの発達で可能性が広がった

実は、コンピュータは何でもできると思われませんが、13年前にコンピュータを買ったときには、ハードディスクがついていませんでした。ハードディスクがついているような機械が売っていなかったんです。ハードディスクがなかったら今は何の作業もできませんよね。今は保存して作業を止めてもそこにあるからまた引き続いて作業ができますよね。昔はハードディスクがなくて、フロッピーディスクが720kしか入らなかったんです。だいたい半分ですね。保存するにはこれしかなかった。例えば、720を超えるものは何枚も分割しないとしまえなかった。メモリというのは、コンピュータの作業テーブルとお考えください。作業テーブルが狭いということは、仕事をしたくても、すぐ机が埋まってしまう。書類1枚乗せれば終わりですよ。メモリが多いということは、いろんな書類を置いて、それを見ながら同時に作業できる。今は64MBありますが、私の頃は640k=100分の1で、A4ポスター1枚乗せるのがきついようなコンピュータで作業をしていました。コンピュータの能力が低いので、印刷物を作るのも制約を受けていたのです。それがここ数年で、メモリ128MBなど、

とてつもない容量があるので、その中で作業できるから、DTPでも写真を取り込んだものも作れるんです。

コンピュータが進んでいく中で、デジタルカメラやスキャナも良くなっています。そういう発達がここ数年の中で進んできたということを理解していただくと、ご自分の持っているコンピュータのありがたみがわかるのではないかと思います。

コンピュータのここ数年での印刷に関しての向上、飛躍的な進歩とDTPとの絡みをごく簡単に皆様にご説明させていただきました。

皆様がDTPをされるときに、コンピュータを使ってできる作業が、知識を向上させることによって、最終的にはトッププロが作るものにつながっているのだという認識を持っていたら、いろいろされることも楽しみながらチャレンジできるのではないかと思います。

プリンターについて

DTPに関してのご質問はありますか？

Q.前に本で読んだところ、DTPはページプリンターの高速処理のことを言っているのかと思いましたが。

A.プリンターのことについてお話しますと、布地のようなリボンにインクを染み込ませて、タイプライターのように、布のベルトに文字をポンと裏からたたくと文字が写りますよね。「ワイヤードットプリンター」と言ったと思いますが、タテに並んでいた布に、コンピュータからの指示でポンと後ろから叩いて、叩かれたところだけが紙に写るようになっていたんです。例えば「ア」という字があれば、(板書)このように点でアという文字が示されますよね。こういうふうに徐々に一列ずつ打っていくわけです。一番最初に、この点だけ打ちますよね。だんだんとずれていきます。一行ずつ打っていくのが最初のプリンターでした。

コピーのようにトナーを使うプリンターが出てきた時点で、印刷物に使える点での出力が可能になりました。今、皆さんお持ちのプリンターは、インクジェットが多いと思いますが、インクジェットのプリンターは、プリンターではきれいですが、それが限度です。

今、回しますのは印刷の版下です。非常に細かくできるので、視覚的には非常にきれいなものが作れます。こういうプリンターとは異質で、インクジェットプリンターは、霧吹き状に紙にぴゅっと吹き付けます。

写真を印刷に使う場合、モノクロでは黒のインクを使い、

灰色のインクはありません。真っ黒は、べったり黒で塗れば表現できますね。グレーのものを表現するときは、少し間の空いた点を遠くから見るとグレーに見えます。印刷は黒のインクしか使えませんが、グレーを作るときは、点で表現しています。濃いグレーは密度の高い形でインクを紙に乗せればできますし、薄いグレーは間が空いています。インクジェットは霧ですから、黒は黒でできますが、グレーは、印刷するときは、点で表していないので、黒いインクでは表現できません。

広報紙を作る場合、インクジェットで写真を印刷して持っていても「印刷できません」とはねられます。なぜかというと、インクジェットで作った写真は灰色のところは、レンズで見てもわかりませんが、きれいなグレーになっています。ところがグレーは印刷できません。きれいに見えた写真も、印刷所で網点のものに置き換えなければ印刷できません。このようにインクジェットプリンターは、DTPでの版下作成には使えません。ただ、出力したものは最高レベルのものでいくらかでも作れるし、これからもレベルは上がっていくと思います。

DTPに必要な印刷にも使えるプリンターは、黒か白でしか表現しない、レーザープリンターが出てきて、印刷の版下として使われるようになりました。インクジェットと並んで、手に入れやすいインクリボンのプリンターがありますが、灰色になったりしないで、黒い部分であれば真っ黒、グレーであれば点に分ければグレーになっていきます。そういうプリンターも出ていて、プリンターのレベルが上がったので、DTPの環境ができました。

DTPとは一般に、自宅でもできるプリンターさえあれば言われています。レーザープリンターではないとダメとかは、版下ではありますが、インクジェットで十二分なものがあると思います。

DTPという意味は、周辺機器のレベルが上がってきた分、いろんな意味で捉えられるようになってきました。

どこまでDTP、どこから印刷に回したほうがいいのか？

Q.私どもが原稿をつくるのは簡単。原版としては使用不可ですよ。パソコンで200枚、300枚作るのにはコスト的に不可能。版下として印刷機に回せば多量に印刷できる。そのへんの話。パソコンで500枚するのはたいへんです。パソコンでDTPと言っても、どこまでなさるのか、複写機であれば10枚程度かと思えます。量の部分のお話をぜひ伺いたい。

A.話を絞ってくださってありがたい。カラー物に絞って言うと、結局コストとの計算になりますが、プリンターで10枚くらいだったら自宅で出せると思います。100枚となったら、インクもかなり使いますので、ランニングコストもかなり高くはなってくると思います。プリンターで作ったものをカラーコピーすると1枚確かA4だと40円だと思います。100枚作れば4000円。そうなるとうと結局、少部数に関して、プリンターでも時間的にもコストもいかなという線がありますよね。ただ、「時間もない、手軽に」となると、1枚作ってカラーコピーにすればいいのですが、色が汚くなります。カラーコピーの限界なのですが、インクジェットできれいな色を出してもカラーコピーでは黒ずんだ色になってしまいます。昔に比べればはるかにきれいなのですが、100枚で4000円ですから、これが限度だとすると、次にコストの安いものといえば、印刷しかありません。印刷ですと、1枚も10000枚も違いは紙代だけで、工程は代わりありません。コストは、1枚版下を作るのに50000円だとします。50000枚作るとすると、50000円プラス紙代、インク代、手間賃です。カラー物で一番かかるのは、版下を1枚作るまでの工程なんです。それに対してプリンターやカラーコピーは、1枚出すためのインク代や紙代が問題なんです。その意味で第1段階として、カラー物でプリンターで何枚か出す。第2段階としてカラーコピーする。1枚40円で安いようですが、部数が多ければかなりの金額になります。次に可能なのは印刷だけです。印刷の中で安いものを探すのは非常に難しいのですが、印刷業界も100枚とか200枚の小ロットではお客さんをなかなか引っ張り込めない。高いということをお客様もよくご存知だから。どうやって安くしていくかで、プリンターと印刷と一緒に合わせたような機械を作って「オンデマンドプリンティング」という言い方で、お客様の要求に応じて部数を印刷できるシステムがここ2~3年でもかなりできてきました。それも金額で言うと、コピーに比べてがんと高くなります。ただ、プリンターでは枚数的にしんどい、コピーもきついのであれば、その中で安いシステムを探すしかない。私は仕事でやっていますので、安い情報も知っていますのでそういう資料もお渡しできます。

年賀状のカラー葉書、全面で断ち落としですから、1000枚で皆さんがデータを用意された場合、13000円くらいでできます。数年前に比べたら信じられない金額です。カラー葉書を作られた方で10万円くらい取られた場合もあるのではないかと思います。

このように、私たちも手をだしやすいシステムを印刷所も作っています。葉書1000枚が13000円くらいでできます。A4の片面カラーで3000枚で65000円くらいです。3000枚というのも、皆さんにとっては中途半端だと思います。500部くらいでいいとか。それでカラーであれば、残り2500部は他の使い道をするしかありません。以前に比べれば5分の1くらいの値段でできます。

そういうデータは皆さんが作れるかどうかというと、作れると思います。実は私はWindowsはほとんど使わずに、Macintoshで、イラストレーターとか、フォトショップ、ページメーカーなど、皆さんも使えるようなソフトで組めば、データとして印刷所に入稿できます。部数1000部の印刷物を作りたい場合、どういうソフトでどういう出力をすればいいかだけ心得れば、業者を通さずに直に印刷所にデータを入れたフロッピー、ないしはMOを送れば10日くらいで印刷物が来る。どなたでも印刷物がつくることができます。

そこで問題になるのは、どういうソフトで、どういうデータを作るかです。

印刷所への依頼方法

Q.印刷所に版下までMOで渡せば、コスト的に多少安くするのはないかと思うのですが、ここにあるポスター（Windowsワードやパワーポイントで作成されたもの）原稿として持っていても受け付けてもらえませんよね。

A.できないことはありません。写真に撮ってその写真を製版すれば印刷できます。これをMOにデータとして持っていても印刷できません。ほとんどの場合。

ワードなどは、印刷物を作るものと目的が違います。プリンターでいかに手軽にきれいに作れるかを考えながら作られたソフトなので、プリンターではきれいに出来ますが、印刷仕様でデータを印刷屋に持っていても受け付けてくれない。

そうなるとうと、500部くらいの印刷をする場合、方法として2つあります。

1つは、さきほど見せたような紙の上で白黒はっきりしたものを作れば、印刷所に持っていけばこれをフィルムで撮って製版して印刷できます。

DTPに適するソフト

もう一つは、データで印刷所に持っていきます。その場合、何のソフトで作ったかが重要になります。フィルムにできるソフトで作られているかどうか問題なんです。

今日は、印刷フィルムをお持ちしました。新聞の折込チラシ

シ。触っても傷つけても構いません。1色刷りのもの、4色のカラー刷りのもの。ブラック、イエロー、シアン、マゼンタのフィルムです。これが重なるとカラーになるわけです。

皆さんと私の境目などほとんどないのです。私がたまたまこういうことを皆さんより知っていて、それなりのソフトを持ってやっているから、仕事としてやっていけるわけですが、皆さんもソフトを揃えて知識をお持ちになれば、印刷仕事はいくらでもできます。

いわゆる SOHO ってありますよね。スモールオフィス・ホームオフィスですか。私は家で仕事をしていますので、SOHOの典型です。ホームページを作ることも。

使用したソフトはイラストレーターです。イラストレーターのデータを印刷所に持っていけば、4色分版してくれます。バージョンは5～8で気にすることありません。保存方法を指定できますから。体裁は変わりません。イラストレーターの優れたところです。

プリントアウトは皆さん自宅でされていますよね。(参加者・Windowsのイラストレーターを使用しています。)

私、教えていただきたい。Macはそれなりに使えますが、Windowsでもできなくてはいけないなと手に入れようと思っているところですが、若干操作が違います。

(参加者・自分で描いてみたいなと思っているところです。)

A.そうですか。

印刷所へ持ち込むデータの保存形式は？

Q.先ほど、フォトショップでもできるというお話でしたが、保存するときの形式は？

EPSでの保存です。EPSデータにするのです。TIFFでもたぶん大丈夫だと思います。印刷をされる場合、問い合わせれば「どういう形式にしてください」と指定されますので、大丈夫です。ワードにその保存形式はありません。

Q.葉書で写真はJPEGで保存すると印刷してくれますよね。それとは違うのですか？

A.違うと思いますよ。

Q.先ほどシアン、マゼンタ、イエローとおっしゃいましたが、色の三原色ですよね。シアン、マゼンタというと、どんな色ですか？

A.シアンは、青、マゼンタは濃い桃色です。イエローは黄色、それと黒です。

今日、聴きに来られる方がどの程度かわからなかったのですが、話が絞りにくくて申し訳なかったのですが、これから本格的

にコンピュータを触ってみようという方も、ご自分たちがこういうものを作れる。ソフトが違えばそのまま印刷できないにしても、ソフトを変える、違うソフトを使うことによって、印刷も充分可能な操作ができる、ということを持っていられたら、コンピュータを使う意欲が高いものになると思います。

市もいろいろな場所でコンピュータを使える場所を増やしていると思います。それを積極的に使っていく中で、ポスターや出版方面もチャレンジされたいと思います。

「IT革命」という言葉もあるくらい、インフォメーションというのは、コンピュータを介してのインフォメーションと捉えていいと思いますので、ぜひとも今日の話が多少なりとも、コンピュータが使えれば印刷に関していろいろなことができるという知識を持っていたいただければ、それなりの意義があるのではないかと思います。(休憩)

ポスター品評会

では実際にポスターを見ていきましょう。ずいぶんハイレベルですね。<ボランティア・ほとんどボランティアの作品です。お二人はパワーポイント、その他はワードです。>

ボランティアが作られたポスターを題材に、来られている皆さんで品評会をしましょう。ファイン用紙はきれいに出来ますが、普通紙ですと少し質が落ちますね。

余白の処理

最近はおちなしのプリンターもありますが、ふちはどうしてもプリントできません。

全面色をつけたポスターの白い枠(余白)は邪魔になってしまいます。例えば、べったりカラーで作ると迫力があってきれいな半面、上の真中にあるように白地に文字を載せているものは、周りの白い部分は気になりませんよね。プリンターの限界をこなすには、白を基調とした中に作られるとそれなりの見栄えのものが作れると思います。

下のものは、周りの余白が目についてしまう。そういうハンディをしょってしまう。どうしてもそうしたい場合は、A4のものであれば、B4のプリンター設定で出して周りを裁断すれば、フチいっぱいまで全部印字できます。これも白い部分を切ったら、印象が全く変わると思います。個人用プリンターの限界でもあるので、デザインされるときに考慮されたらよいのではないかと思います。

「パソコンで音楽すれば」というものも周りが白く、左右の幅が違いますよね。あれを見ると、プリントアウトの限界

だな。と見た瞬間に感じてしまう。その辺を避ける工夫をされる。ポスターとしてはそこが重要なのではないかと思います。いかにも「プリントアウトしました」と外の余白が余白として残るのは避けたほうがデザイン性が高まるのではないかと思います。

一番左のものは、外の余白が広すぎるのではないかと思います。中がきゅっと狭くて、紙がもったいない。印刷できる領域までゆったり広げたほうが見やすいのではないかなと思います。一番右下の第5回のもも、さっき急いで作られていたから止むをえないと思いますが、あれも使えるところまで使ったほうがポスターとしてはアピールする力が強いのではないかと思います。全体的に皆さんうまく作っていらっしゃるし、外の余白を白で生かすか、どうしてもバックの色を使いたければ、外を断ち切る方法を取られたほうが、いいかなと思います。

色紙の活用

もう一つ、上の一番右。色紙を使っていらっしゃる。非常にきれいだと思いますが、色紙の場合は、上に載せた色が白に出したときとは違って出るということは頭に入れて出されたほうがいいと思います。あれは色が薄いので、インクのノリもきれいにしているのだからあれは全然問題はないのですが、ただ、色の強い緑を使うと赤が黒ずんで見えたりするので、色紙を作る場合は、その考慮が必要になると思います。

Q.その場合、どういう配慮をすればいいのでしょうか？ 個人的にやっているレベルですとインクももったいない。こんなところでということがあらかじめわかれば。

A.色見本を作ればいい。128色分くらい。カラーチャートの簡易版をご自分で作って持っておく。もったいないといっても、色紙でやる場合、一枚だけはプリントアウトしてみます。ご自分で試されないと、補色とかいろいろありますが、それ以前に、この色にこのインクはどうかなと一枚試されて、その上で色のデザインを考えられるのが一番いいと思います。紙はインクを吸うと色ががらっと変わるんです。例えば光沢紙で写真のような出来栄えのものが売っていますよね。ちょっと高いですが、あれはインクを吸い込む度合いが少ないので、インクの発色が非常にきれいです。紙によっても全然違います。インクを吸ってしまう紙と吸わない紙とでは、その辺も考慮の対象になると思います。

モニターの色は印刷すると変わる

Q.コンピュータで表す色と実際印刷する色との三原色は違

いますね。バックに色を乗せておいて、それに色を足すと実際には違ってしまいます。

A.モニターで出る色と実際に出る色は全然変わってしまう。そのプリンターの色とモニターの色とを比較するために、実際に印字したものをモニターのヨコに持って行って、色の違いをじっくり見ないと、どんなにいいモニターでも出力した色とはぜんぜん違います。特にプリンターは印刷すると、見栄えをするように色を組む。どういうことかという、赤、真っ赤、金赤というのですが、黄色とマゼンタその2色だけを掛け合わせると真っ赤になる。それをプリントアウトしてルーペで見ると、他の色が必ず乗っています。その2色だけだと、見た目にはイマイチ見栄えがしないから、他のちょっと黒をほんのわずかずつ入れたりして、見た目に赤らしく見えるような操作をプリンターは必ずしています。そうすると、画面で真っ赤を作る。自分では三原色で言えば、マゼンタとイエローだけを使って作った赤が、実際のプリンターでは黒を混ぜているから、全然色が変わってしまう。ご自分が使うカラープリンターがご自分が使うモニターと、どういう色の違いがあるか、それを何回かやって覚えていく中で、モニターではきれいな色で見えてもたぶんプリンターで出すと色がかなり変わって汚くなるから、これは避けようとか、そういう工夫も出てきます。モニターも全部色が違います。操作されている赤とディスプレイの赤では全然違うでしょ？ モニター10台並べたら、10台全部違うと思います。

あれの印刷がこれですよね。普通のモニターに出てくる色はすごくきれい。でも、出力したときには、ちょっと濁った色に変わってしまう。モニターでの色と実際の色は、プリンターによってもがらっと変わります。実際に使われるものの中で、経験で覚えていくようにしていただきたい。それしかないです。試していくこと。

Q.色は主観ですよ。あれは赤だ」「いや赤じゃない」という方がいらっしゃいます。これを印刷屋に持っていくときの表現方法はあるのでしょうか？

A.色見本をお持ちになるといい。15000円くらいしますが、DIC(日本塗料協会)カラー見本。それは印刷業界共通の色です。こうして話していきますと、印刷が皆さんの身近なものになってきていますよね。昔は版下を作る業者に任せないと何も印刷ができなかったのですが、皆さんがお持ちのパソコンで何らかのものを作ればそれが印刷に使える状態なんですよ。

写真の取り込み方法

皆さん、お気づきのことはありませんか？

Q. 写真を入れるのは、デジカメかスキャナーか、何がいいのですか？

A. スキャナーを重要視します。デジカメもきれいに撮りますが、あくまでもモニター、画面上で見栄えのするような形で組まれていますので、印刷に出すには不向きです。性能が高くなっていますが、やはりデータが荒い。普通のプリントをスキャナーで 600dpi で取れば、デジカメよりはるかにきれいなものが撮れます。

文章や文字はよく吟味して

文章の練りは、ポスターでも欠かせないことです。

Q. 文字の分量やバランスは？

A. この場合は、近くで見えることを目的にしていますよね。そうすると、問題はないと思いますが、ポスターだったら、小さい文字は見えてくれない。見本を持ってきました。

私が作ったプロレスのごうりゅうまさん、厚木の緑ヶ丘にお住まいのレスラーです。テレビにも一時良く出ていました。マイナーなグループなので、カラーのお金をかけたポスターは作れない、大きさも、予算はこれで、期間は明後日くらい。「印刷ってそんなものではできないよ」と言ったのですが、モノクロだから出来るだけ早くということで作ったのですが、これも見にくい部分はいっぱいありますよね。断ち落としとって、写真が切れる部分が何箇所か取れますよね。印刷だから。プリントアウトしたものと、一目瞭然と違うなという部分があります。これは実寸です。A3 ですが、A1 くらいのお大きさでないと迫力のあるものは作れないのですが、お客様の予算もあって、この大きさになったのですが。

「あつぎプロレス夏祭り」という文字をうんとでかくして、あそこでひきつけようということですね。あそこだけ読んでくれればいい。後は 9 月 9 日。周りの主催などは見にくい。あんなものは全然読まないで構わない。見て欲しいのは、「厚木プロレス夏祭りが 9 月 9 日にあります」ということだけ。時間と場所。そのくらい。見てもらいたい部分を絞って、主催や後援は出さなくてはいけない。後援した方に怒られますし。載っていればいい。一番見せたい部分は文字も絞って圧倒的に大きな文字でポンと出す。それは必要なのでは。

Q. レタリングの技術になるわけですか？

A. 昔はレタリングの技術が問われましたが、今はコンピュータで好きなように作れてしまう。レタリングに興味を持っ

ていらっしゃる方は、コンピュータは非常に便利だと思います。カラス口やロットリングで線を引いて、その線の中を黒く塗りつぶしていく。一つ間違えると、筆が外にでてしまったり。コンピュータだったらアウトラインを引いてその中に黒を塗ると指定するとすぐできる。文字を作るのも、イラストレーターで作って墨を流し込めば、描きたい文字はいくらでも作れます。

「あつぎプロレス夏祭り」という文字も、ソフトでこちらで指定すれば、すぐやってくれますし、白抜き文字も、昔ですと、製版の光を強くして外に広がるようにとかすごくむずかしいことをしていたのですが、中が普通のサイズの文字で 2 ミリ太らせるという指示を送ればぱっとできて、それを白くすると「ざぶとん」というのですが、ああいう形で、写真の上に文字を乗せてみやすいものができる。下の文字はそれに比べて見にくいですね。これだけ離れると見にくいな。

写真を切り抜いたのも大変な作業です。時間もないので、鋭角でごまかしています。フォトショップで切り抜いています。切り抜きも手間がかかりますが、ソフトで丹念にやれば、きれいにできます。手を挙げているレスラーも、切り抜いて邪魔な部分を消せば、バックが白になります。今はいとも簡単にできます。

Q. 元はカラー写真だったのですよね。これを白黒にするコツは？

A. フォトショップでカラーで取り込んで、グレー変換するそれだけです。明暗のメリハリはフォトショップで細工しています。トーンカーブをいじり、真っ黒や真っ白をなくして。

(司会) 残りは懇談で。Windows も Mac も自分で試しながら触ってみてください。

(山本) 準備はしてきたのですが、とりとめのない話で申し訳なかったのですが、今後、DTP を積極的に楽しんでいただければ、その気持ちが少しでも強くなっていただければ、今日の私の話も、それなりに意味があったのではと勝手に解釈しています。印刷関係の人ってとっつきにくいとか、ムスっとしていると言われるのですが、気楽なだけ取り柄の人間ですので、もしわからないことがありましたら、メールでも質問等、ご意見もいただけたら幸いです。

繰り返し言いますが、Mac を使っていますので、Windows に関しての問い合わせはご遠慮いただきたいと思います。今日はありがとうございました。

(文責：マルチメディアボランティア 林 葉子)